

## 早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 1月分 各業界からのコメント

### ◎建設業

- ・毎年12月～翌年3月は若干工事が減るため、それも想定内で計画を立てている。発注先の業績も徐々に回復しており、4月以降は工事の受注も増えてくる予想。
- ・従業員の間で第8波の家庭内感染者が続出し、業務に影響が出てきた。
- ・2022年の後半から建築資材や燃料、エネルギー高騰が経費圧迫に拍車をかけている。今後の見通しとしては新築業者がリフォーム業に本格参入してくることで競争の激化が予想される。
- ・新型コロナウイルスに関連した大きな事業変化はないが、新年祝賀会は中止。年初の円高振れの建設市場への影響は今後出てくる。

### ◎製造業

- ・年末年始をはさみ、コロナ感染症の罹患者が増加し、担当者不在で営業活動はスロースタート気味。
- ・仕入コスト上昇の影響は避けられないため、販売価格への転嫁をいかにお客様へご理解・ご納得いただけるかが鍵となる。

### ◎卸売業

- ・買い控えになり、価格転嫁をどうしたらよいか。
- ・第8波の状況が気になる場所である。年当初は制限のない正月で久しぶりに活況を呈していたが、不安要素はかなりあると思う。
- ・年末年始の最需要期を過ぎ、消費者の購買行動も鈍化し売上を見込めない月である。今後の天候次第では、更なる低迷も懸念される。
- ・降雪により工事施工できず仕事がない。
- ・中国のゼロコロナ政策解除が世界的な景気や流通などにどのような影響を及ぼすのかわからず不安。

### ◎小売業

- ・大雪やコロナ第8波の影響で売上が減少。
- ・何とも難しく判断の付かない年明けとなった。好転することを望むが、今月の状況次第かと思う。

### ◎サービス業

- ・県外の仕事が飛躍的にアップした。
- ・12月、1月と一部値上げと新潟県版 Go To Eat で売上が伸びた分の収益は出ているが、新潟県版 Go To Eat が1月31日で終了するため、2月以降は地域のお店応援商品券と全国旅行支援のみとなり、今後の消費行動に左右される。
- ・日銀のサプライズで円安は一服しているが、まだまだ予断を許せない。新型コロナのパンデミックとウクライナ・ロシア戦争でグローバルなサプライチェーンが寸断され品不足のダイヤモンド型インフレとコストプッシュ型インフレの複合インフレが起き、更に米国の利上げもありスタグフレーション化してきている。
- ・人件費の上昇、仕入原価、営業コストを吸収できる価格で消費者から支持いただける商品・サービス

の提供が出来ないと生き残れない。何よりも人手不足が解消されないと規模の拡大は難しい。

- ・ ウィズコロナの考え方も少しずつ広がり始めており、少しずつ人流も戻ってきていると思うが、まだまだコロナの影響は大きい。タクシー会社の将来は全く先が見えず、何をやっても延命処置に過ぎないと思える。早く終息を願うばかりである。
- ・ 週末あるいは催し物開催日の人流増大が期待できる雰囲気になってきている。
- ・ 運賃改定後の売上は伸びているが、関連する物品価格が高いため利益にはつながらない。コロナ禍により、人手不足が顕著になってきている。政府が賃金の見直しを進めようとしているが、中小企業には難しいものがある。
- ・ 普通の生活に関する様々な物価高、電気料金の高騰の影響が大きく、賃金が上昇しなければ経済がなかなか回らないのではないかと懸念している。
- ・ 人件費、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁しきれず、売上は前年並みであるものの利益は出ない。
- ・ 1、2月は毎年売上があまり伸びず、3月で少し良くなる。
- ・ 例年1月は休日も多く売上は期待できない。一年の始まりとして準備期間として考えており、インボイスについても意識と準備を進めていきたいと考えている。
- ・ 昨年11月以降、第8波による感染により出勤できない従業員が急増しており、人手不足感がさらに強まっている状況。
- ・ 行動制限のない年末年始を迎え、今年一年が希望の持てる年となることを予感させるスタートであったが、株価にいたってはご祝儀相場どころか反落し、為替相場は円高基調、早すぎる日銀の利上げ政策等、経済にとってマイナス材料しか見当たらない。今後の景気動向が大いに心配である。
- ・ 今年度は計画通りの売上・利益となる見込みであるが、次年度の見通しはまだ見えてこない。